

令和5年度第1回 大和市文化財保護審議会 会議録

日時：令和5年7月19日（火）
午前13時30分～15時00分

出席者等

委員 (5名)	◎金子 皓彦、○鈴木 通大、坂本 要、田中 徳久、神崎 直美
事務局 (4名)	文化振興課長、市史・文化財係長、市史・文化財係職員2名
傍聴者	なし

◎…会長 ○…職務代理者

公開・非公開の状況

■公開 □非公開 □一部非公開

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 令和4年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について 資料1
 - (2) 令和5年度文化財保護事業の予定について 資料2
- 3 その他
- 4 閉会

会議要旨

- 2 議事
 - (1) 令和4年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について
前回会議での委員の意見を基に作成した評価案 (資料1) について審議。この評価案をもって、本審議会の評価とする。
 - (2) 令和5年度文化財保護事業の予定について
事務局より資料2について説明。質疑あり。委員の意見を参考にして、本年度も事業にあたってもらいたい。
- 3 その他
薬王院薬師如来像(上和田)について
桜ヶ丘金毘羅神社境内内石造物(庚申塔)について

3 議事

(1) 令和4年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について

事務局より資料1「令和4年度 指定管理事業報告概要及び評価(案)」について説明、委員との質疑をおこなった。

【総括】

□審議会からの意見を参考に一部加筆し、事務局作成の評価案を本審議会の評価とする。

【指定管理者の自主事業内容について】

□「舞踊の上演」について、どのような内容で、誰を主対象にした事業なのか。

△日本舞踊「獅子舞」「七福神」など、季節に合った演目を年中行事の一つとして上演している。獅子舞では子どもの頭を噛む演出もあり、子どもから大人まで全年代を対象に体験的に親しんでもらう事業である。

□「人形浄瑠璃」は、観覧者数95人/来園者数384人と、来園者数に比べ観覧者数が少ないが、観覧したくても入れない人もいないのではないかと。

□和風のイベントは各地で盛り上がりを見せている。例えば、洗足池の橋の上で能を上演している。民家園でも伝統的な演出の枠を超えた見せ方ができるのではないかと。検討してほしい。

□大和市は、地場の民俗芸能とまつりなどが、神奈川県内でも著しく少ない地域である。伝統芸能のイベントなどをしようとするとうち市町村から演者を招待して開催しているような状況である。今後、さらに民俗芸能等が衰退していくことを防ぎ、発展させていくためには、行政主導で民俗芸能、文化を育てていく必要があるのではないかと。

【収支決算概要について】

□令和4年度は1,419,709円の黒字になっているが、毎年度同程度の黒字になっているのか。

△指定管理期間は5年間。指定管理料は、5年間のうちに人件費や物価が上昇することを見込んで、5年間で収支が釣り合うように設定している。単年度における過不足については回収や補填を行わないことにしているため、令和4年度が黒字であっても返金を求めない代わりに、今後赤字が発生しても市から補填は行わない。

参考までに、前契約期間5年間(平成28～令和2年)のうち、初年度の28年度のみ黒字、29年度以降の4年間は赤字に転じている。

□本来的に指定管理方式は文化行政にはそぐわないのではないかと。入札制の指定管理方式では、安かろう悪かろうになることが往々としてある。現状ではたまたま良い財団が落札してくれているが、安い人件費で疲弊しながらも非常によく頑張っている状態である。できれば直営にしてほしい。

【前年度の評価報告について】

□昨年度の2月の第2回審議会で、指定管理者から年間の事業報告および経年変化のグラフなども提示され審議しているが、半年も間があいて評価をするとすると、その際の情報は覚えていられないうえに、2月時点の内容では3月の決算報告は審議していないことになる。資料の提示の仕方など検討してほしい。

△検討する。

【評価視点2「施設の効用が最大限に発揮された事業運営が行われたか」について】

□コロナ禍前と比べて利用者数の変化などはあるのか。

△コロナ禍前は概ね4万人の利用者があったが、令和2年度は約1万人減少し31,767人、令和3年度はやや緩和したことから近場の外出が増え42,529人と例年並みに回復した。しかしながら、さらにコロナ禍の状況が改善した令和4年度は、遠方への外出が増加したことが影響したと考えられ、34,967人と減少している。

(2) 令和5年度文化財保護事業の予定について

事務局より資料2-1「令和4年度文化財保護事業の予定」、資料2-2「大和市指定文化財一覧」、資料2-3「郷土民家園事業予定」について説明。

【総括】

□委員の意見を参考にして、本年度も事業にあたってもらいたい。

【『大和市史資料叢書19 信法寺記録』の刊行予定について】

□『大和市史資料叢書19 信法寺記録』の改題執筆の予定は。

△信法寺の住職に依頼予定で内諾をいただいている。学芸員であり、光明寺で研究員をしている。

□光明寺の研究員は実務として何をしているのか。

△開祖の事績研究をしていると聞いている。

□光明寺は特別な展示スペースはないが、仏像、近世文書が多数保存されていると聞いているため、それらの資料研究などもされているのではないか。

【「歴史の日」について】

□「歴史の日」とは大和市だけの記念日なのか。

△大和市だけのもの。11月1日は文化財保護強調月間の初日でもあり、市民の皆さんに大和市の歴史だけでなく、市民一人一人の歴史にも関心を持ってもらいたいという趣旨で、昨年11月1日に「歴史の日」を定めた。

□全国的に初めてか。

△我々が調べた範囲内では、全国的に初めて。

□良いことですね。

【無形文化財保護事業について】

□年々移り変わる街の風景を、10年おきに順次撮影するという事業に関連して。

以前、大和市では古写真を収集して『大和写真館』という写真集を刊行しているが、それから3, 40年経過しているのではないか。

歴史の日などをきっかけに写真展などを開催して、古写真を持っている方から提供してもらってはどうか。撮影期日、撮影場所がわかる写真が望ましいが、わからないものでも多数集まれば同定できるものもあるのではないか。

□これまでに市で定点観測をしてきた動画や写真はあるか。

△市全域を対象に定期的に定点観測をした記録はない。しかし、旧市役所（現保健福祉センター）屋上から東側を眺望する写真が、開庁当時から数十年刻みで複数枚残されている。それに気づいた時点から数年おきに市史・文化財係の職員が同地点同カットの写真を撮影しており、それがほぼ唯一の定点観測した写真といえる。

□高座渋谷駅周辺も最近大きく様変わりした地域なので、その周辺も変化を記録しておきたかった場所の一つだと思う。今からでも遅くないので、市内各地で是非定点観測を始めてほしい。

□『大和写真館』に掲載されている写真の撮影ポイントも、定点観測の地点に加えてはどうか。また、10年ごとの撮影では期間が長いように感じる。もう少し短いスパンで撮影してはどうか。

□古い映画の中にも大和市内で撮影したものがある。映画には音が入っているため、静止画にはない情報も含まれているので、映画なども集めても良いのではないか。